医局だより

福島県立医科大学医学部　乳腺外科学講座
野田　勝

福島県立医科大学医学部乳腺外科学講座は同外科学第二講座(阿部力哉名誉教授)、同器官制御外科学講座(竹之下誠一名誉教授)を前身とし、外科学講座再編に伴い2016年11月に大竹徹主任教授のもとで新設されました。乳腺外科単独での教室運営は、全国的にも多くはなく東北地方では唯一の乳腺診療に特化した教室です。現在、常勤医師5名、非常勤医師2名、博士研究員1名、秘書2名の計10名で診療・研究・教育など運営にあたっております。当科での初発乳癌手術件数は、講座開講当初の2017年は108件であったのが2021年は150件を超え、豊富な症例による臨床研修や学術活動をもとに、講座開講以来7名の乳腺専門医、1名の臨床遺伝専門医、3名の学位取得者を輩出しています。

乳癌診療は、画像診断・病理診断から始まり、手術療法・薬物療法・放射線療法による集学的治療が行われ、ひいてはBest Supportive Careに至るまで、一人一人の患者さんに向き合い、またその家族も含めて長期にわたる治療期間のサポートが必要です。乳腺外科とは、多岐にわたる専門的な知識が求められるだけではなく、まさに人間力が試されるものと感じております。もちろん、乳癌診療は乳腺外科医のみで成り立つものではありません。多種の部門・職種と協力関係を築き、常にチーム医療を意識して診療にあたる姿勢が重要です。当院では、腫瘍内科、放射線治療科、病理診断科、形成外科、遺伝診療部など関連部門と連携を取りながら、多方面から患者を支える体制が整えられています。特に近年複雑化してきている薬物療法については、教室内カンファレンスで情報を共有するとともに、佐治重衡教授をはじめとした腫瘍内科の先生方と密接な協力体制を築き、患者さんにとってより適切な治療を提供できるように努めております。

研究面においては、これまでに乳癌サンプルを用いた分子生物学的基礎研究から、トリプルネガティブ乳癌の予後不良分子や高齢者乳癌の腫瘍免疫微小環境の特徴などを明らかにしてきました。また、次世代ハイビジョン近赤外光カメラシステムを導入し、インドシアニングリーン蛍光法とラジオアイソトープ法の併用によるセンチネルリンパ節生検の精度を向上する研究も行っています。さらには数多くの臨床研究、治験にも

医局だより

参画しており、福島の地からも新たなエビデンス構築の一助となるように今後も積極的に推進して参ります。

福島県は北海道、岩手県に次いで全国第3位の広い面積を有しており、残念ながら都市部と群部では医療偏在の問題があることは否めません。乳癌診療においてもこの問題は小さくはなく、当教室でも県内各地の病院に教室員を派遣して診療応援を行っています。こうした問題の解決のためにも、乳癌診療に携わる人員の確保、教育が急務です。福島県立医科大学では、前述の外科学講座再編と同時に、外科専門医プログラム研修の改革にも着手してきました。そして、本年度より新設された乳腺外科専門医カリキュラムには早速1名の応募・登録を得ることができ、

教室員一同が大きな喜びと、今後ますますの教室の発展への期待に胸を膨らませて新年度を迎えたところです。福島県の乳癌診療を支えていくという高い使命感を持ち、一丸となってこれからも真摯に取り組んでいく所存です。様々な場面で乳癌学会会員の皆様のお世話になることと存じますが、今後とも変わらぬご支援賜りますようお願い申し上げます。